県立広島病院広報誌
もみじ
第147号
2021.5.1
発行
県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号
※県立広島病院の様々な情報をホームページへ掲載しています。
県立広島病院 で 検索 (URL：http://www.hph.pref.hiroshima.jp/)
理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

連携医院のご紹介

今回は南区皆実町にある「適切で誠実な医療」をモットーに整形外科全般を診療されている吉岡整形外科の吉岡薫院長にお話を伺いました。

吉岡院長

医療法人社団 吉岡整形外科

〒734-0007
広島市南区皆実町 4-18-14
電　話／082-250-2200
院　長／吉岡　薫
診療科目／整形外科
　　リハビリテーション科

吉岡整形外科外観

正面出入口

○いつ開業されましたか。

平成４年に段原でビル診として医院を立ち上げました。７年後の平成 11 年に皆実町に移転し現在に至っております。今、話題になっています被服支廠の傍で無床の整形外科医院として診療を行っています。

○力を入れている事などを教えてください。

整形外科のなかでも脊椎・脊髄外科を専門として経験を積んできた経緯がありますが、地域の皆さんに貢献するということでは整形外科全般を診ています。

特別に力を入れていることはありませんが、しいて言えば、昨年まで脊椎・脊髄疾患、主に腰椎で手術の必要のある患者さんは、他医の協力病院に紹介入院していただいて、私が術者として手術をしてきたことでしょうか。私をサポートしてくれる医師の異動があり、私自身古希を過ぎ、高齢になりましたので、今年から手術に出かけることを止めることにしました。大学・勤務医時代と同じように長年一開業医として手術ができる状況にあった事は幸せなことだったと思っています。

○毎日の診察で大切にされている事や、やりがいは何ですか？

あたり前のことですが、患者さんの立場にたって、適切で誠実な医療をすることに努めています。より専門的な医師の診療の必要性を見極めて、必要があれば積極的に専門医を紹介し、より良い治療を提供するよう心がけています。そして医療はチームがまとまって初めて円滑に進むことができますので、スタッフを大切にしています。やりがいは月並みですが、患者さんが満足され笑顔になってくれることでしょうか。

○県病院はどんなところですか。

開業医一人でできることは限られており、病診連携でサポートしていただかないと不可能な場合も多々あります。また整形外科領域にはリウマチ類似疾患や下肢の血行障害に由来するような疾患なども含まれます。困った時にはバックに県病院があるということで大変心強く思っております。今後とも宜しくお願いいたします。

後ろの建物は被服支廠

ロゴマーク

【取材後記】
院長先生とスタッフの皆さんが和やかな雰囲気で、院内には広く明るい待合室があり、とてもリラックスできる空間だと感じました。

県立広島病院からのお知らせ

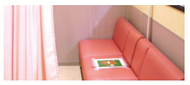
5月のがんサロン

- 開催日　令和3年 5月 26日(水)
- 時　間　14:00～15:00
- 場　所　新東棟2階 研修室（会場参加とオンライン）
  ※会場参加は10名（先着順）
  ※感染状況によりオンラインのみに変更の可能性があります。
- テーマ　がん療養中の食事
  ～みんなどうしてる?食べられない時の工夫～
- 講　師　栄養管理科 管理栄養士／丸本 多栄
- 対　象　悪性腫瘍(がん)の患者さん及びそのご家族
  当院での受診歴は問いません
- 問合せ先　がん相談支援センター
  ☎ 082-256-3561（担当/定元）

授乳室移転のお知らせ

4月9日より中央棟１階にありました授乳室が中央棟２階の小児科外来と産婦人科外来の待合室内に移転しましたので、授乳および、おむつ換えの際は、是非ご利用下さい。

調乳用のお湯と手洗い用シンクを設置しています


奥にある授乳室

小児外科

教えてドクターDr 46

専門診療医による得意治療を紹介いたします。

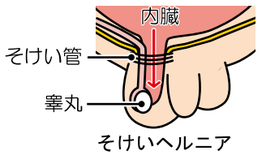
こどもの股間（外陰部）の病気は誰が診る？

小児外科 主任部長
大津 一弘

◆そけいヘルニア

小児外科では男児女児問わず、子供の外陰部に生じる疾患を多数診ます。男児だから泌尿器科医、女児だから婦人科医が診るわけではありません。またこれをご存知ない方々も多いように感じます。小児外科は頚部、胸部、腹部等、小児の全身を診療する診療科ですが、実際に股間（外陰部にある疾患群）は診療の半数は占めると思います。少し解説します。

男児女児問わず多いのは『そけいヘルニア』です。足の付け根をそけい部といいますが、この部分に先天的に袋があり、内臓が脱出する疾患です。成人とは異なる手術術式を行います。

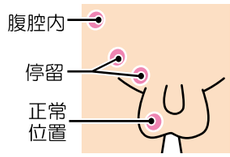


そけいヘルニア

◆男児の疾患

男児の場合は精巣に関与する疾患があります。停留精巣とは精巣が陰嚢内に下がっていない疾患で、不妊等の原因となりますので、手術が必要です。ただし、移動性精巣という疾患と区別が難しいこともあり、専門医の診察を勧めます。精巣が大きいといってこられる患者さんもおられますが多くは陰嚢水腫といって、精巣周囲に水がたまっている疾患です。多くは自然治癒しますが、手術が必要なこともあります。しかし、この中にはまれに精巣腫瘍が含まれることがあり、自己判断はおすすめしません。

精巣の痛みで来られる患児は急性陰嚢症といいます。この中には精巣捻転という精巣が壊死（くさる）する疾患があるので正しい判断を早期に行わなくてはなりません。そのほかにも精巣上体炎等、手術が不要な疾患もありますので正しい判断を要します。



停留精巣

おちんちんの疾患として多く相談されるのは包茎です。しかし幼小児では正常な状態であり手術を要することはほぼありません。内科的治療を行います。なお当院では宗教的な希望による包茎手術はしていません。尿道口の位置が正常でない尿道下裂という疾患もありますが、これはおちんちんが曲がっていることが多く、修正が必要です。外尿道口に腫瘤がある外尿道口嚢胞にも対応しています。また埋没陰茎という、一見、おちんちんがないように見える病態もあります。

◆女児の疾患

女児では、乳児期に膣がないといって受診される陰唇癒合症があります。これは表面だけの問題ですので、外来での剥離処置で治癒します。しかしまれに本当に外陰部が閉鎖していて手術が必要な鎖陰の患者さんも含まれますのでその知識は必要です。また女児尿道部分に先天的な腫瘤があり治療を要する傍尿道嚢胞があることがあります。

女児で、ご承知いただきたいのは、外傷の患児です。会陰部の外傷（裂傷）は意外と多く、風呂場やプール等で発症しています。このような病態を診察しているのは婦人科医ではなく小児外科医です。他院から“こどもだから診察できない”、といって紹介されることもあり、外陰部の診察になれている小児外科医が治療に適任と考えます。

次頁は医療従事者向け

教えて Dr 46

◆そけいヘルニア診療および小児泌尿器科診療について

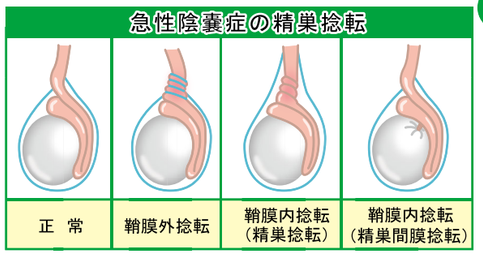
手術中の大津主任部長

当科では以前より、小児そけいヘルニア診療とともに、小児泌尿器科診療を手がけてきました。そけいヘルニアは、創部の整容性に配慮した前方アプローチによる開放手術を行っています。入院期間は昨年までは３日間でしたが、現在は２日間に短縮しています。

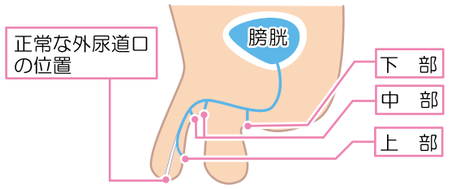
小児泌尿器科診療は多岐にわたりますが、手術数が多いのは停留精巣です。腹腔内精巣では腹腔鏡手術を行いますが、ほとんどの症例は通常の前方アプローチで完遂します。入院期間も昨年までは４日間でしたが、現在３日間に短縮しました。

◆早急に診断、治療が必要です

急性陰嚢症は小児泌尿器科領域では数少ない緊急疾患ですが、当院麻酔科、手術室の協力もあり、待機時間の少ない治療を行っています。発症後６時間以内での手術が精巣の救済率を上げることが知られており、できるだけ早期の紹介をいただければ成績もよくなると思います。



また、最近 10 数年来、尿道下裂手術の工夫と改善を行い、手術症例も増加し、手術成績もよくなっています。術中術後管理も工夫し、手術器具もマイクロサージェリー用に変更しました。ただし、尿道下裂手術は難しい手術として知られており、まだまだ改善を試みている状態です。



尿道下裂

◆当院の小児外科にご相談下さい

小児そけいヘルニアや小児泌尿器科疾患は外陰部の視診で診断に至れることが多い病態です。小児科の先生方、検診や診察時に患児の“股間”になにかご心配な状態がありましたら、当科に紹介相談いただければ幸いです。

外科医の独り言…no.115

― 継続は力なり ―

今、この原稿を４月 11 日（日）に書いています。原稿の締め切りは明日です。この４月１日より院長を拝命したことから、一部の職員や地域の先生方からこのコラムがどうなるのかというご心配をしていただきました。コラムを今月からやめてしまうと、新規連載や掲載記事が決まっていないために月刊「もみじ」の３ページ目に大きな穴を開けてしまうこととなります。先月までは副院長兼外科医として勤務してきましたので、「外科医の独り言」として通用しましたが、これからは院長職に専念するために外科医から遠ざかります。でも「独り言」を書く時間は何とでもなると思います。

連載を続けるとしても「外科医の独り言」で良いのだろうか？「院長の独り言」のほうが良いのだろうか？まあ、タイトルはどうでもよいのでしょうが、いくら独り言といえども院長の立場でものを言うと、院内にも対外的にも影響が大きくなりますので、せめてタイトルだけでも現状の「外科医の独り言」にしておいてもらった方が書きやすいかなと勝手に思っています。「もみじ」４月号の巻頭に院長の挨拶を書きましたが、あのような堅い文章を書くとなるとなかなか筆が進みませんでした。

今、最も心配しているのは題材（ネタ）です。「もみじ」をご覧になっていただいている開業医の先生方から、「よくあれだけ書くネタがあるねぇ」と言われます。もちろん、自分の勝手な想像で作り話や妄想を書くのは簡単なのですが、あくまで外科医として日々感じたこと、聞いたこと、経験してきた事実をもとに書いてきましたので、もう何年も前から慢性のネタ切れ状態が続いています。それでも原稿の締め切り前日にパソコンの前に座って瞑想していると、不思議にネタが降臨してくるのです。でもこれから外科の業務から遠ざかり、職務も変わりますので、ネタがタイムリーに降臨してくれるか正直言って心もとないです。

そもそも私はなぜこのコラムを書き続けているのでしょうか？自分でも不思議です。約 10 年前に院外広報部会の部会長を、当時の院長だった桑原先生から命じられました。職務はもちろん広報誌「もみじ」やホームページを通して、患者さんや地域の先生方に県病院をアピールすることです。広報誌「もみじ」の形態も少しずつ変化してきました。当初「もみじ」は年に３～４回の発行でしたが、もっとアピールするために毎月発行にしました。そして、広報部長として何とか紙面を埋めるために「外科医の独り言」を書き始めました。10 年前から今も広報部会に在籍しているのは、私と事務のHさんの２人だけになってしまいました。Hさんは「外科医の独り言」のイラストを描いているだけでなく、「もみじ」の編集や県病院のホームページの管理もしてくれている広報のキーパーソンです。その彼女の絶品イラストのおかげで「外科医の独り言」の秘かなファンが増えていったように思います。当初は４～５回の連載で終わりにして次の企画を考えるつもりでしたが、そのHさんが連載を終わることを許してくれませんでした。そしてズルズルと 10 年が経過しました。

今回の院長就任は、「外科医の独り言」を終わりにする絶好のチャンスなのですが、彼女を中心とする広報部会では「外科医の独り言」がなくなるということは想定されておらず、「もみじ」の編集作業を行う明日の広報部会も通常通り開かれるようです。ということで、いつものように原稿を書いている次第です。どうも、Hさんの許しがなければこのまま何事もなかったように「外科医の独り言」は継続のようです。引き続きイラストをよろしくお願いします。

院長／板本　敏行

うえポンの 脳心臓血管カンファレンス

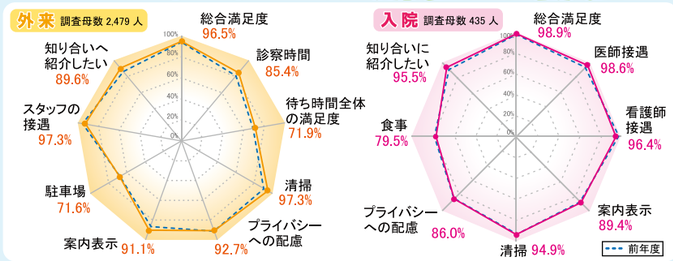
脳心臓血管センター長／上田 浩徳

椎骨動脈関連疾患に対する超音波検査の有用性

【脳神経内科／木下 直人】

椎骨動脈は頚部体表面から超音波検査にて観察することができます。その血流観察におけるドプラー波形によって超急性期の脳底動脈閉塞の診断（頭蓋内血流の推定）や収縮期最大流速の値と波形パターンによって椎骨動脈近位部狭窄や鎖骨下動脈狭窄の推定も可能です。特に次にあげる三つの疾患 ①椎骨動脈解離（Vertebral artery dissection）②Bow hunter 症候群 ③Vertebral artery stump syndrome（VASS）の診断に有用です。

①椎骨動脈は首の骨の中を走っている動脈ですが、解離（血管が傷つき裂ける状態）が生じると突然激しい頭痛が生じ、脳梗塞やクモ膜下出血を起こすことがあります。これら脳卒中を起こす前の早期の軽症のうちに解離を超音波検査にて発見・診断出来ることがあります。②Bow hunter 症候群とは頭位変換（頭部の回旋や前屈等）によって一側の椎骨動脈が頚椎の部位で圧迫されることで狭窄または閉塞し、めまい、ふらつきや意識消失等の椎骨脳底動脈循環不全症状を呈する症候群です。発症機序から Rotational vertebral artery occlusion syndrome（RVAOS）と総称されています。カラードプラーを用いて、頚部の回旋に伴う血流の変化を確認出来れば診断することが可能です。③VASS とは椎骨動脈起始部閉塞の初回発作からある程度時間が経った後に、再度、椎骨動脈系に脳梗塞を発症する病態のことです。発症機序は閉塞部の遠位端からの遊離血栓や発達した側副血行路の末梢への流入部での血流停滞によって生じた血栓によって再度、椎骨脳底動脈領域に脳梗塞が併発すると考えられています。閉塞部位の性状評価や血流パターン、側副血行路の評価、経時的変化の観察には頚部エコーが有用です。当院ではこれら椎骨動脈関連疾患に対する超音波検査を積極的に行っています。

患者さん満足度☺ アンケート調査の報告

令和２年 11 ～ 12 月にかけて、患者満足度アンケート調査を実施いたしました。多数の患者さんにご協力いただき、誠にありがとうございました。皆様からのご意見を真摯に受け止め、少しでも多くのことを改善できるように今後とも努めてまいります。